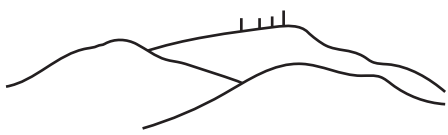


Youth Manna

2020/12/28 - 1/3



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2020/12/28(月)

詩篇 88 篇

この詩を書いた人は、死を身近に感じるほどに苦しんでいました(3-6、10-12) しかもそんな時に「親友」も「愛する者や友」も彼から離れて行ってしまったのです(8,18)。詩人は、それらは神様がそのようにされたと言っている(7,8)。これは神様を恨んでいるのではなくて、今経験している苦しみを神様との関係の中で捉えようとしていたからなんだ。だから彼は、どんなに絶望的な状況であっても、あくまでも神様に向かって叫び続けたんだね(1,9,13)。

詩人のように、答えがまだ与えられていなくても、神様の御手が自分の上にあることを忘れないようにしましょう！どんな時も神様が私たちの希望です！

どこにも助けが期待できないように思っても、神様だけは当てに出来る。この真理はあなたにとってどんな意味があるかな？

2020/12/29(火)

詩篇 89:1-18

ラハブ(エジプトのこと)、タボル、ヘルモンはどれも神様によってイスラエルが劇的な戦いの勝利をした時の重要な場所で、この作者は神様の偉大さ、真実さ、恵深さをイスラエルの歴史を思い出して賛美しています。それは作者が全て上手くいっていたから賛美したのではなく、試練や葛藤があったからこそ歴史を通して神様がどのようなお方か思い起こして賛美したのです。

- ・あなたは心に葛藤がありますか??
- ・今年一年を振り返り神様が良くしてくれたことを思い出して感謝しましょう!!

2020/12/30(水)

詩篇 89:19-37

詩人は、自分たちが特別に神との契約を結ばれたダビデの子孫であることを思い起こし、思い巡らしている。バビロン捕囚という民族的な苦難を体験して、自分たちは何者なのか、というところに立ち返り、何により頼むべきかを見出そうとしているのである(19-29)。その中で詩人は、主が無条件にイスラエルの味方になると言われたわけではないと気づいた。主のおしえを守り、主の定めのうちを歩む必要があるのだ(30-32)。そして詩人は、神は恵みをもぎ取することをせず、真実を偽らないお方であり、ダビデの子孫はどこしえまで続くという、神の約束のみことばに立ち返ることができた(33-36)。

この詩人のように、主の前で静かに自分のありようを思いめぐらし、みことばを自分のものとしよう。

2020/12/31(木)

詩篇 89:38-52

今日の箇所はバビロン軍がエルサレムを陥落させた後に作られた詩のようである。記者は、(主はダビデの家をどこしえまで続く契約を結ばれたはずなのに)エルサレムの陥落、神の宮の破壊を見て、神が契約を破られた、民を見捨てたと感じた。(38節)それほどまでに衝撃的なことだったのだろう。しかし、神は見捨てたのではなく、そこにも計画があった。

記者は苦悩や嘆きをそのまま神様に訴えて(祈って)いる。あなたはどうかだろうか？ことばを吟味してから祈るのではなく、心から祈れているだろうか。今年はコロナの影響で様々な変化があったが、今年一年を振り返り、感謝を祈ろう!!

ドラえもんが初めて
野比家に来た日

2020/1/1(金)

詩篇 90 篇

▶12節から17節にかけて「～ください」という表現が9回出てくる。詩人は何を神様に求めていたのだろうか。

▶人には、日々の生きる糧や喜びが必要である。だから詩人はそれを神様に求める：あなたの恵みで私たちを満ち足らせてください(14)。喜ばせてください(15)。

▶詩人が何よりも大切にしていたものは神様との関係だった。だからこそ詩人は、帰ってきてください(13)と主を求める。自分の日を数えることを教えてください(12)は、定められた死を迎える日まで、罪の悔い改めのうちに神に信頼して1日1日を積み重ねたいということだろう。

▶今日から新しい一年が始まる。私は今日どんなことを神様に求めたら良いだろう？

2020/1/2(土)

詩篇 91 篇

今日の箇所を書いた人は神様の守りに心から信頼をしていたね。ひな鳥が親鳥の翼の下に完全に守られているように、神様の守りを信じ切って頼っていたんだ。そんな作者に対して、神様は「彼がわたしを愛しているからわたしは彼を助け出す」と語った。神様が私たちの神様の愛を知ってくださっているってすごいことだよ！

「彼はわたしを呼び求めればわたしは彼に答える」と神様はいってるね。私たちは神様の愛と守りにどう応答していけるか考えてみよう！

2020/1/3(日)

詩篇 92 篇

日々の生活の中で、神様に「がんばって感謝しなければならぬ」と思って感謝をしていませんか？一節に「主に感謝することは良いことです。」と書かれていましたね。これは義務的に「がんばって感謝」することは含まれません。むしろ、感謝の源は、神様が与えてくださった恵みを数え、味わうことにあるのではないのでしょうか。

一節の「良いこと」は「幸せなこと」とも訳することができることばです。私たちは「主がともにいてくださる。これ以上の幸せはない。」そのように感じているのでしょうか？またそのことを感謝して生活しているのでしょうか？